

那覇港管理組合20周年記念事業

# 戦後の復興と未来 那覇港物語

物資の輸出入、集団就職、  
海外移民、家族旅行  
みくんな那覇港から出発!!

復帰前後の那覇港の貴重な映像の上映

出会いと別れ、南極観測船宗谷の寄港、大阪万博など

戦前戦後の写真約 80 点展示

琉球王朝時代の海外との交易の出土品

復帰前の倉庫の柱が AR で出現します

3月15日(水)~3月27日(月)

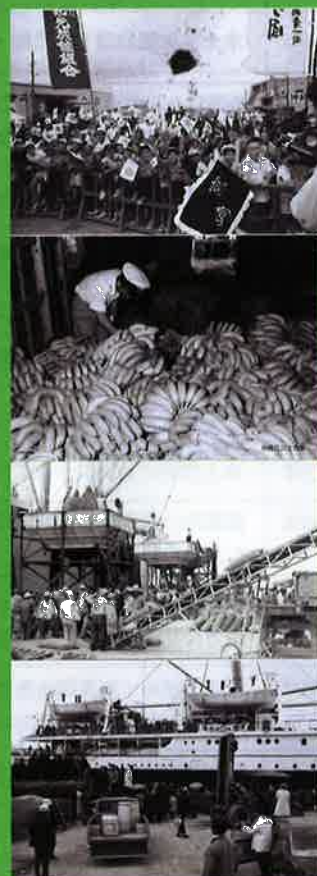
9:00 - 19:30 / 入場無料 / 火曜日休館日

沖縄県立図書館 4F 交流ルーム

沖縄県那覇市泉崎 1-20-1 カパーナ旭橋 A 街区 ゆいレール旭橋駅 | TEL:098-894-5858(代表)

主催：那覇港管理組合 後援：沖縄アーカイブ研究所、琉球海運株式会社 協力：那覇市文化財課

制作：美栄橋 235 企画(総長)Susumu Hirai、はらっぱプロジェクト



# 那覇港の歴史

■出典：那覇港管理組合 <https://nahaport.jp/> ■写真：那覇港管理組合、那覇市歴史博物館、株式会社 OTK



1264年	浦添城を居城とした中山王 英祖が泊港（現在の泊ふ頭）を国港として整備。
1422年	沖縄本島の統一を果たした尚巴志王が、 <b>那覇港（現在の那覇ふ頭）</b> を中国貿易などの拠点とした。以後、那覇港は東南アジアや日本本土との中継貿易として栄えた。
1452年	尚巴志の三男尚金福王の時代、那覇港が泊港をしのいで国中第一の港となる。さらに、このころの那覇は海に囲まれた州であったことから、中国人懐機により、久茂地のチンマーサーから 安里橋（現在の崇元寺橋にいたる海中道路「長虹橋」）が築かれ、それ以来、那覇港には諸国の船が錨をおろした。
1853年	米海軍ペリー提督来島。首里城を訪れるとともに本島周辺の海図を作成。
1879年	<b>廃藩置県</b> 。火車と呼ばれる汽船が出入港するようになった。
1884年	本土～沖縄航路（鹿児島・大阪）が開設される。
1907年	築港は各知事の主要事業であり、奈良原知事は、国費にて第一期築港工事に着手、日比、高橋の代を経て大味知事の1915年（大正4年）に完工、1,500トン級の汽船3隻を横づけできる棧橋を架設。
1921年	那覇港に水深-7.5mの岸壁の建設が始まり、1925年（大正14年）に完成。
1944年	<b>米軍の空襲により那覇港の港湾施設が破壊され使用不能となる - 1945年 終戦。</b>
1951年	米軍が那覇港及び泊港の建設工事に着手。
1954年	那覇港北岸、琉球政府に譲渡。南岸は米軍の軍港地域に指定され、泊港は那覇市に譲渡。
1969年	那覇市が那覇新港（現在の新港ふ頭）の建設工事に着手。
1972年	本土復帰の直前に那覇港・泊港・新港を一体的に管理運営するため3港を一元化。那覇市が管理、現在の那覇港となる。
1984年	那覇港の港湾計画策定。「1984年 / 波の上橋」「1985年 / 泊大橋」「1993年 / なうら橋」「1995年 / とまりん」完成。市民生活や産業・観光振興に大きく寄与。
2002年	那覇港の開発発展と利用の促進を図るとともに、適正で効率的な管理運営を行うことを目的として沖縄県、那覇市及び浦添市の三自治体で特別地方公共団体「那覇港管理組合」を設立。
2006年	日本で初めて純民間企業によるターミナル運営がスタート。那覇国際コンテナターミナル株式会社（NICTI）の運営が始まる。トランシップ貨物を中心とした貨物量の増大により海上輸送コストの低減を目指す。
2011年	「那覇うみそらトンネル」供用開始。「2013年 / 波の上うみそら公園」供用開始。
2014年	「那覇クルーズターミナル」供用開始。